

**2022 年度終了 東京都立大学教育改革推進事業  
（【B】個人提案型支援プログラム）取組**

**1 取組名称**

学外体験・実習型講義での ICT の活用—事前学習効果の向上と履修動機付けを支援する  
取り組み—

**2 取組対象科目**

全学共通科目 教養科目群 自然と社会と文化（X0128）

**3 取組実施代表者名**

理学部 生命科学科 准教授 黒川 信

**4 取組年度期間**

2021～2022 年度（2 年間）

**5 取組の概要**

学外調査を伴う教養科目「自然と社会と文化」にて、ICT 技術（全方位カメラ映像）を活用し学内での事前学習を強化することで現場の教育効果を高めることや、学生の負担意識を下げ履修の動機を高めることを期待する。具体的には、履修申請前説明会で 360 度映像を提示した上で履修意思を決めさせることや、事前学習で各自の視点で全方位映像を能動的に視聴し、独自の質問と発見を促すなどの取組を行った。また、「自然と文化と社会」に限らず、本学の多くの分野で取り入れられている現場体験的な実習、調査、見学、巡検等に普及・活用されていくことを目指す。

**6 事後評価の総合評定**

4. 0 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

**7 事後評価に関する審査会での主な意見**

- 「自然と社会と文化」の事前授業において「全方位カメラ映像の能動的視聴による学習プログラム」を開発し、活用したことは、受動的な学生に対しても能動的意識を持たせるという意味で評価できる。その結果、受講生達が自らの発見や疑問をグループで共有し多様な視点があることへの気付きにつながることは重要と考えられる。映像の視聴が履修の動機づけになっていることから、本事業の目的は十分に達成されたと思われる。
- 全方位カメラ映像（静止画および動画）の能動的視聴はユニークな取組で、その学習効

果については評価できる点が多いと判断される。

- 本学の理念にかなう授業内容について、特に遠隔地であることによる従来の限界を突破できる可能性が示された。